

Wildlife Conservation in Kenya

A paper presented at the JICA Yokohama International Center

on 5th May & 6th June, 2010

by Ms Dorothy K. Nthiwa

自然保護でのケニア政府の努力について：

ケニアは、あの不屈の長距離ランナーの故郷であるだけでなく、あの有名な動物相や植物相の故郷でもあります。800 頭以上の犀、33,000 頭のゾウ、2,400 頭のアフリカライオン、1,000 頭のレオポルド、そして、無数の野牛で、ケニアは、まぎれもないビッグファイブの「本当の家」(true home) ですし、わくわくするようなマサイマラ動物保護区は「世界の七番目の驚異」と目されています。

私達の恵まれた国は世界中に歓迎されている海洋生態系と、鳥類と哺乳類の種類の豊富さで、アフリカ諸国の中で第二番目に位置しています。

ケニアは、生物多様性に富んだ国です。約 25,000 種の動物、7,000 種の植物が、現在までに記録されていますし、少なくとも 2,000 種の菌類や細菌がいます。巨大な数の動植物の種が、この国の群生し色鮮やかな珊瑚礁から、凍結した高地の沼地まで、いろいろな生息地に存在しているのです。しかし、はっきりしていることは、ケニアの生物多様性は、自然や人類に起因する影響や、様々な原因からの脅威を受けており、調和の取れた研究努力や焦点をあてた保護行為がなければ、ケニアに特有の、素晴らしい種を永遠に失いかねません。

絶滅危惧種に指定されている哺乳動物：

モグリカモシカ、黒犀、偶蹄類、東の赤い猿、オナガザル、葦毛のアンテロープ、黒のアンテロープ、白犀、黒だら鯨、青鯨、グレビの縞馬、アフリカの野犬、巨大な茂みのネズミ、低地のネズミ、エルゴン山のネズミ、臀部が金色のトガリネズミ、東の大カモシカ、チーター、縞ハイエナ、沼沢にすむアンテロープ、レオポルド、ハーテビースト、ロスチャイルドのジラフ、アフリカ象、アフリカライオン、

絶滅危惧種の鳥類：

タイタアパリス (せっか科)、タイタツグミ、マダガスカル沼のサギ、サケーフアルコン (はやぶさ)、エジプトハゲワシ (コンドル)、ソコケの梟、アバデ

アのムシクイ、バスラ葦のムシクイ、ターナーのヒメムシクイ、点のあるツグミ、アマニの太陽鳥、クラークの織織（はたおり）鳥、シャープの長い爪、ソコケのタヒバリ、チョウゲンボウ（小型のタカ）、白頭鷲、肉垂鷲、巨大な斑点鷲、東帝鷲、マダガスカルの子バメ千鳥、青ツバメ、白翼のアパリス、カラモジャのアパリス、パピルスの黄ムシクイ、ヒンデのカササギ、修道院のムクドリ、チャピンのタイランチョウ

絶滅を危惧される爬虫類と両生類

ホークスビルタートル（亀）、ドートイトのトレントフログ（蛙）、グリーンタートル（亀）、オリーブリドレイ（小さいウミガメ）、ロックパイソン（ニシキヘビ）、シンバヒルのバナナフログ（蛙）、シンバヒルのリードフログ（葦蛙）、フォーレストフログ（蛙）、トリーフログ（蛙）、ケニヤ山フログ（蛙）、クレビス タートル（淡水亀）、ツルカナのマッドタートル（泥亀）、モンタネのトード（がま）、モンタネのトリーフログ（蛙）、ケニア山のブッシュバイパー（灌木毒蛇）、ケンプのリドレイ（小ウミガメ）、ブラックタートル（亀）、ロッガーヘッド（亀）、レザーバック（おさがめ）、イエローベリヒンジテラピン（黄色のお腹をもったカメ）、トロピカルゲッコス（熱帯のやもり）、バオバブゲッコス（バオバブのヤモリ）、リシングのスキנק（とかげ）、ケールベリのリザド（とかげ）、ガードルリザド（とかげ）、ウオームスネーク（虫へび）、グンターのムカデクイ、東アフリカの卵食い蛇、茶色のつば吐き大コブラ、黒首の斑点のある蛇、サバンナモニターリザド（とかげ）、スペックルド ブッシュ スネーク（蛇）、プファダー（まむし）、グリーンマンバ（毒蛇）、ナイロビトード（がま）、シルベリトリーフログ（蛙）、タイタトード（がま）、イエロースポテドトリーフログ（蛙）、ツルカナのトード（がま）、デリケートスピニリードフログ（葦蛙）、ペインテドリードフログ（蛙）、ロングリードフログ（蛙）、スポテドリードフログ（蛙）、ウオーターリリーリードフログ（葦蛙）、ケニアサンドボア、サイドストライプド カメレオン、フラップネック カメレオン、エリオットカメレオン、ハイカスクド カメレオン、ジャクソン カメレオン、ケニア山カメレオン

絶滅の危機にある魚類

シンギデア テラピア、レイク チャラ テラピア、ジペ テラピア、ヴィクトリア テラピア、レインボウ シェラー、レイク ビクトリア デイープウオーター キャトフィッシュ（なまず）、モンタネ ダンシング ジュウエル、マガデイ テラピア、ジャインアントラッス、ビクトリアストーンバッシャ（なまず）、キョーガフレイムバック、グレイナースシャーク（鮫）、ビゲヤツナ（まぐろ）、ハウエルシャーク（鮫）、ポーキュパイン レイ（エイ）、オーシャニ

ック ホワイトテイツプ シャーク (鮫)、グレートホワイトシャーク (鮫)、ボウマス ギターフィッシュ (坂田鮫)、ブラック ブロッチド ステイングレイ (有毒のエイ、アカエイなどだが、ここでは黒点のあるエイ)、ジャイアントギターフィッシュ (坂田鮫)、ショートテイル ナース シャーク (鮫)、ブリンドル バス (まだら模様のバス)、ブルーノト (青小魚)、ボジ プレイン ノトブランチ (小魚)、エロンゲイト ノトブランチ (小魚)、エワソ ナイロ ラベオ (ナイルに住むニゴイ)

絶滅に瀕している植物類

ボイ サイカド (そてつ)、イースト アフリカ サンダルウッド (東アフリカの白檀)、レッド ステンクウッド (赤い悪臭を放つ木)、メルオーク (メル地方の檜類)、カンファー (樟脳)、パラソルトリー、ラットアロエ (アロエ)、タナリバーポプラ

保護のための戦略

KWS (Kenyan Wildlife Services) がケニアと世界の人々のためケニアに住む野生動物の保護と管理を実施しています。同社は 376 議会立法で制定された法律で設立された公社で、ケニアに住む野生動物を保護し管理すること、及び、関連法規を実施することを委託されています。

ケニアの野生動物と生物多様性保護が直面している挑戦は、多数であり、多岐に亘っています。それは、気候の変化、生息地の劣悪化と喪失、森林の枯渇、不安定な観光市場、人口の増加がもたらした人間と野生動物の相克、そして、野生動物を共生や密猟の対象にしてきたコミュニティーの土地使用の習慣の変化が含まれます。

これらの案件に取り組むために、ケニアは、多方面のアプローチと戦略を採用し、かつ、異なった利害関係のグループや、援助者やパートナー達を噛み合わせています。

KWS は、協力者と共に、保護区外の野生動物資源の保護と管理を実施しています。他の人々と野生動物資源の保護・保全・持続可能な管理をすることが私達の目標です。他の人々との協力で行う KWS の‘コミュニティーの為の野生動物プログラム’は、野生動物の「獣道 (ケモノミチ)」や自然公園や保護区の外にある「飛び地」のように、野生動物にとって必須の土地に住んでいるコミュニ

ニテイーに、「生物多様性の保護」をお願いすることになります。その前提は、「もし、コミュニティに住む人々が、野生動物や他の天然資源から恩恵を蒙るならば、その時はじめて、その人々は、これらの資源を大事にするだろう」ということです。

1. 国立公園と保護区

KWS は、広大な国土の約 8% を管理しています。その中に、22 の国立公園、28 の国立保護区、そして、5 のサンクチュアリーが含まれています。更に、KWS の管理の下で、4 海洋国立公園と 6 海洋国立保護区が海岸部にあります。加えて、KWS は、保護区の外に 125 に及ぶフィールドステーションを持っています。

野生動物の生息地を越えて、公園やステーションには、事務所付き住宅’ブロック群、多数の訓練所、多数の修理場、多数の研究センター、多数のホテル、店やレストラン、多数の試掘孔、道路網、滑走路と関連プラントや設備があります。

2. 野生動物管理と保護の探求

KWS は、野生動物の保護と管理を科学の力で推進するアプローチを強めています。これには、継続的な疾病調査とコントロールを通じて、野生動物の健康を追跡把握する事が含まれています。

遺伝子の資源 (Genetic resources) :

生息地と野生動物を保護することで、KWS は、また、新しい、又は、改善された食料作物、薬物 (治療)、或いは、他の生産物を開発する上で役立つ遺伝子資源を保全することができます。その遺伝子の資源、例えば、食料作物に関係する野生の植物は、干ばつ、水害、塩害に抵抗力を増す遺伝子をもっているかもしれません。生物工学者たちは、このような遺伝子を使って回復力の強い重要な作物を作り上げるかも知れないのです。

環境評価 (Environmental assessment) :

後世の人々のために、野生動物とその生息地を、持続可能に、管理出来るようにすること。

生態系 (エコシステム) の復元 (restoration) :

森林の保全と水資源の保全。

KWS が管理している 10 の海洋公園と保護区は、海の生命を生み出し、国の漁業

を持続させる重要な孵化場所です。

場所の移動 (Translocation) :

野生動物の移動は、人間と野生動物の相克、特定の地域の収容能力の管理、及び、遺伝子多様性の極大化等の課題を解決する手段として使われています。

種の保全 (Species Conservation) :

:特定の絶滅危惧種の存続を確かなものにしたり、保護したりします。

生物の探究 (Bio-prospecting) :

生物工学上の努力を増幅し、ケニアのアロエ種の保護と管理を戦略化し、野生動物の遺伝子や微生物、DNA 抽出、有益な混合物の発見と評価、オリジンの確認が進められます。

国際的な活動の場 (International Arena) :

多国間の環境に関する合意 (the Multi-lateral environmental agreement =MEAS)、アフリカ象協力 (the African Elephant Coalition) の形成や CITES 会議での生物多様性に関するコーディネーション。

水 (Water) :

KWS はケニア山、アバデア、エルゴン山、チュウル(Chyulu)、そして、マルサビツ (Marsabit) の重要な貯水池の保全と管理に責任をもっています。

加えて、**KWS** は、他の国家機関と協力しながら、マウ森林 (The Mau Forest) の保全と復元に努力しています。

エネルギー(Energy):

KWS は、国のエネルギー資源のかなりの部分を守っています。ケニアの約 70% の電気は水力ダムから来ています。その大部分がタナ川 (Tana River) にあり、ケニア山やアバデア国立公園から流れています。2 番目の大きな資源はナソロット国立保護区のツルクウェル溪谷 (Turkwell Gorge ゴージ) です。地熱発電がヘルズゲート国立公園で行われています。

国家の安全 (National Security) :

KWS は、訓練された制服組で、国家の安全を補完する部隊です。

KWS は、野生動物、人々、そして財産を守っています。

野生動物に関する政策と規則を見直すこと (Review of wildlife-related policy and legislation) :

地上での豊富な経験を用いて、KWS は土地、観光、漁業、森林の保全、水と環境管理の政策に貢献しています。

国際会議(International Convention):

ケニアは、沢山の環境会議に出席し、議定書に署名しています。野生動物に関する誰もが認める国の代表として、KWS は、国際会議に呼ばれ、国際協約を解釈し、国内の条件に適応させ、ケニアで実行に移しています。

3. 法の実施と制定 (Law enforcement and regulation) :

野生動物に関する犯罪との闘い (Combating Wildlife crime) :

私達は、野生動物の安全のために、先行的、予防的、かつ、効果的な手段を講じなければなりません。密猟者を目標とした地上と上空からのパトロールを強化すること、並びに、野生動物、その生息地、及び、観光客の安全を確保することです。

戦略 (Strategy) :

天然資源の保全・保護を強化するためには、周辺の協力者との相乗効果を作り上げることです。その対象は、警察・ケニア航空局税関、司法組織、ケニア林野官等です。

国境を越えて移動する野生動物の保護 (Cross-border) :

国境を越えて移動する野生動物の保護は、タンザニアやウガンダの野生動物保護局と協力的、かつ、積極的に進められてきました。

犬部隊の育成と使用 (Dog Unit) :

ナイバシャにある KWS 訓練所 (KWS Training Institute) では、犬の部隊が、野生動物サンクチュアリの内外で、その安全を増進するために使われています。

4. .訓練の専門化と能力の増大 (Specialized Training and Capacity Building)

ナイバシャの KWSTI:は、種々のカリキュラムのコースで卒業証書や資格証明書を授与する訓練校の一つですし、‘湿地におけるマネジメント’を訓練するセンターと見なされています。

マヤニフィールド訓練校 (Mayani Field Training School) は、私達の保護官 (Our security personnel) だけでなく、安全面で訓練を必要としている他のケニア人の学校に、専門的な訓練を施しています。

その他の保護保全策

保護に関する教育：

KWS の重要な機能のひとつに、野生動物保護政策で人々のサポートを得るために人々に対して、「野生動物保護に関する教育」や色々なサービスを提供するということがあります。これは、野生動物の保護、保全、及び管理を全体的に増進させるうえで役立っています。

KWS は、ナイロビ、ナクル、東ツワボ、メル等の国立公園に教育センターを、サイワ沼沢、カカメガ、ヘルスゲイト、西ツワボ、マリンデイ、ワタム、キシテ、キウンガ、アラブコソコケに情報センターを建設しました。センターは、保護教育プログラムや宿泊施設を学校やグループに提供しています。加えて、動物孤児院、ナイロビサファリーウオーク、そして、キスムインパラサンクチュアリも、同様のプログラムを提供しています。

教育センターと情報センターは野生動物、その生息地、そして、保護の必要性の理解を創造し増進するために色々なプログラムを提供しています。同時に、私達は、野生動物保護に対するサポートとコミュニティーの参加を勝ち取ることを目指しています。

センターでは、必要な自覚を形成するために、種々のトピックスについて、学生達と話し会っています。この話題の中には、健全な環境の重要性、水の有用性と使い方、生物多様性とその重要性、そして、また、人間と野生動物の共生にとって大切な野生動物の生態と行動などが含まれています。私達は更に理解を深めるツアーやゲームドライブを実施しています。

これらは、公園の訪問者達に、自然と接し、そして、理解し、更に、公園の楽しさと保護の運動への理解を増進する機会を提供します。公園は、自然について学び、かつ、健全な生態系を増進する活動に参加する生涯を通じての機会を、学生達に提供する野外教室なのです

動物 ‘養子縁組’プログラム：

ナマイアナ野生動物 ‘養子縁組’ プログラム (Namayiana Wildlife Adoption Programme)

ナマイアナ野生動物養子縁組プログラムは、ナイロビ動物孤児院 (The Nairobi

Animal Orphanage) が、医療面、感情面、そして、精神面のケアを動物たちに提供し、同時に、人間にも野生動物を所有し世話をすることに参加できる機会を提供するために必要な基金を確保するために考え出されました。

これらの孤児や感情的に虐待された野生動物たちを世話する仕事は、動物たちが、特別の注意を必要とし、その進行を評価する定期的な追求調査が求められるため、非常に時間が掛かるだけでなく、非常に資金がかかります。

これらの動物たちは、孤児院に到着するや、直ぐに、ワクチン（予防注射）をうたれます。その動物が他に伝染するような病気に感染していないことを確実なものにするための事前の策なのです。個々の動物に対する寄生虫の駆除は3ヶ月毎に実施されます。特に霊長類は特別の注意を払わなければなりません。彼らは人間や他の動物たちに病気を突発させる大きな脅威を引き起こすことがあるからです。そのあと、動物たちは、孤児院に留まる期間を通じ、発見された時の状況に応じて、十分に必要な隠れ場（Shelter）と、食べ物や行き届いたケアを提供されます。

ナイロビ動物孤児院を通じて、これらの野生動物の生存が確実なものとなされ、ケニアの財産（遺産）が守られることとなります。